

Oxbridge 研修を終えて

鈴木 英司

●はじめに

僕がこの研修に参加した一番の理由は、イギリスに行ってみたかったからだ。しかしそれは個人旅行でもできることだから、大人になってからでもいいだろう。初めはそう思っていて、研修の存在を耳にした時から参加を決めていたわけではなかった。しかし本研修についての話を姉にしたところ、参加した方がいいと勧められた。高校生での体験は成人してからは別だと言われ、何となく研修に参加したいという気持ちが湧いてきた。はっきりと参加したいと思った頃には、募集の締め切りを過ぎていたが、一次募集の人数が少なかったおかげで二次募集が行われ、僕は参加することができた。今となって思うのは、非常に運がよかったことだ。応募者の人数が定員を超えた場合には選考が行われて、全員が必ず行けるとは限らない。周囲は秀才だらけで、きっと選考があれば僕は参加できていなかっただろう。僕はきっかけを与えてくれた姉と、費用を支払ってくれた家族に感謝したく思う。

●研修日程

- 一日目 羽田空港を出発、ヒースロー空港到着後バスでハートフォードの寮に向かう。
- 二日目 ウェルカムティーの後、紅林氏によるレクチャー、その後ワークショップ。
- 三日目 ケンブリッジで観光をしつつサイエンスフェスティバルに参加。
- 四日目 オックスフォード市内を観光、海外留学生とディスカッション、岡本氏によるレクチャー。
- 五日目 プレゼンテーション、ピアノの演奏を聴いたあと市内でお土産購入。
- 六日目 オックスフォード出発、ロンドン市内見学、ロンドン大学訪問後学生の貴島さん、竹本さんと中華料理店で食事。
- 七日目 ヒースロー空港から成田空港へ向かう。
- 八日目 学校到着。

●研修内容に対する所感

「生きざま」研修を堪能させてもらえた。しかし、彼らの意見やレクチャーから一貫した教訓を抜き出すのは非常に難しい、なにせ真逆の事を言っている人だったのだから。僕が唯一抽出できたのは、皆ひたむきなことだけである。目的が明確な人、目の前の事物に対して真っ直ぐ取り組む人、得てして行動的である印象を私は彼らに対して抱いた。

だが僕は彼らとは違う。僕は意識的に、時には無意識で場当たりの楽な方向や逃げ道へ進んで

しまう。だからこそ、紅林氏の自らを努力するしかない状況に追い込むという考え方が僕には印象に残った。

今回、接した人々のほとんど、それこそ他の参加者に対しても自分とは全く違う種類の人間のように感じた。生き様というものを、自ら生きる道を選択し、進む事の出来る人たちが、この研修に参加していると。過大評価かもしれないが。

紅林氏の言葉の実践でしか、私は成長しえないことをこの研修で理解した。



●感想

イギリスで驚いたことはたくさんあるが、公衆トイレが壁であったことと食事がおいしかったことは重大だった。トイレが壁というのは言葉の通りだから解説しないとして、食事についてはイギリスの食文化の為に感想を述べたく思う。

初日、我々は夕食にサンドイッチを食べた。ぱさぱさのパンと奇妙な味の具。はっきりいっておいしくない。サンドイッチがおいしくないなら、いったいこれからの食事はどうなってしまうのかと恐ろしく思ったが、杞憂であった。朝食はパンと目玉焼き、ハムや野菜でこれがなかなかおいしい。結局最終日までおいしく食事をとることが出来た。なお僕は奇妙な食べ物には手を出していない。奇妙な見た目の食べ物が奇妙な味であるとは断言できないが、相応の覚悟がいるかもしれない。真黒な黒い肉？もおいしかった。

●まとめ

この研修は個人旅行では決して得られない物、例えば失敗がある。この研修で寝坊してしまった人も何人もいる。だがその失敗は、予定があらかじめ決められ、集団で移動するからこそだ。失敗を出来るだけ減らそうと、緊張感を持って行動することが大事なのだと僕は思う。そしてその緊張感の中でこそ大いなる成長があるのではないか。僕は今回大きな失敗をした。そしてそれは自分を見直す機会となった。業未だならず、研修に参加しただけでは成長はない。見たもの、感じたものすべてを自分のものとして取り込んでこそ成長があるはずだ。